

活動報告書

報告者氏名：石島 裕也 所属：館林市立第四小学校 記録日：2021年2月10日

キーワード：自閉スペクトラム症 見通し 学校生活に対する不安軽減 技能の向上

【対象児の情報】

・学年 小学3年生 男児

・障害と困難の内容

■自閉スペクトラム症

【活動目的】

・当初のねらい

①1日ごとや1時間ごとの学習への見通しを個別にもつことで、安心して学習や活動に取り組めるようにする。

②興味関心の高いICTを使いながら学習を進めることで、学習に対する意欲を高め、できることを増やす。

・実施期間

2020年6月3日～2月5日（授業で関わったのは、計19回（45分×19））

・実施者

石島裕也

・実施者と対象児の関係

学力向上コーディネーターとして、週1時間（金曜日の3時間目）支援学級に行き、個別指導を行っている。

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

・1日の予定や授業内容について、見通しをもつことができないと不安になることが多い。

・失敗することやうまくいかないことに対して抵抗がある。また、気持ちの切り替えも苦手である。

・集団で取り組むことについては、周りに見られたり、比べられたりすることを嫌うため、取り組めないことが多い。

・文章を書いたり、漢字を書いたりすることに対して、苦手意識を感じている。

・運動能力は高く、体を動かすのは好きである。集団で行う体育の授業や行事に参加できていないことがあったので、技能を伸ばし切れていない。

・ICTに興味関心が高く、タブレットやパソコンを使った活動に意欲的に取り組むことができる。

<p>②「授業に対する見通しをもつこと」を目指して</p> <p><活動内容1></p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任が発行する週予定表に、「どこで、何をやるか」を大まかに記載してもらい、自分なりの学習に対するイメージをもつ。 ・前日に授業担当（石島）が本人と話をし、どんな内容（使うアプリの紹介も含む）を行っていくかを写真や動画を見せながら、詳しく伝えることで、より具体的なイメージをもつ。伝える際に、だれとどこで行うかも伝える。 ・授業に対するイメージをもつことで、見通しをもち、安心して授業に参加できるようにする。 	<p>使用したアプリ</p>
<p><活動内容2></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かさず場面において、活動前に実際の動きを動画や写真で見せることで、安心して活動に取り組めるようにする。 ・実際の活動場面を画像や動画を撮り、自分がどのような動きをしているのかを確認することで、今後どのように修正していけばよいかを考え、先を見通した活動ができるようにする。 	

実践の様子

<授業内容をイメージする活動>



①次回に使う新しいアプリを使いながら、紹介した。

②前日までに、授業の内容を伝える。この場面では、掲示を見せながら、漢字の続きを同じ場所、同じやり方で行うことを伝えた。

対象児の変化

- ・前日に実施者が、授業の内容を使用するアプリなどを見せたり、体験させたりしながら伝えることで、母や担任に対する質問は減り、不安なく実施者との授業に取り組めるようになった。
- ・実施者が声をかけても授業に集中できないことが多かったが、事前に学習の内容や方法を聞いておくことで、何をどのように学習するかが本人の中で明確になり、学習にスムーズに入れるようになった。
- ・授業に対して見通しをもつことができるようになったことで、集中して取り組める時間が増えたので、学習効率が上がり、1時間で複数の内容に取り組めるようになった。

<画像や映像を撮ることで、動きを確認しながら取り組む活動>



①授業者が画像や動画を撮り、それを見ながら投げ方の改善を行った。上級生と、自分の投げ方を比較しながら、上手に投げるためにはどうすればよいかを考えていた。

②初めて行う運動(主に覚える必要があるダンス)については、初めは担任に代わりに行ってもらい、それを自分で動画に撮っていた。その後、担任と映像を確認して、個別に練習してから、集団の中で、みんなと一緒にしていた。また、直すべきところを自分で把握し、改善しようとしていた。



③体育の授業で行っていた T ボールの練習の様子。ここでは、自分のバッティングを見て欲しいという要望があったので、iPad で実施者が撮り、その後、映像の確認を行った。確認をすることで、自分のバッティングのどこがよくて、どこがいけないかを分析し、改善しようとしていた。また、他の人のバッティングを自分で撮り、確認することで、どうすればより遠くに飛ばすことができるかを自分なりに考え、自分のバッティングに生かそうとしていた。さらに、ここで学習したことを体育の時間においても、発揮することができ、とても満足そうにしていた。

対象児の変化

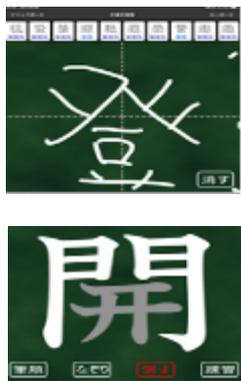
- ・初めての運動については、あらかじめ映像を確認したり、自分で映像を撮影したりすることで、自分のやることが把握できるようになり、今後の活動に見通しをもって動けるようになった。
- ・体育の授業以外で、個別に練習を重ねたことで、打つ、投げる、跳ぶなど、伸ばし切れていなかった運動能力の向上が見られた。また、技能が向上したことで、体育の授業にも自信をもって参加することができた。
- ・画像や映像で確認を行いながら練習を行ったことで、修正点を自分で考えることができ、さらなる技能の向上に繋げることができた。

2.「興味関心の高い ICT を使いながら学習を進めることで、学習に対する意欲を高め、できることを増やす。」という目標を達成するために

①「漢字を習得すること」を目指して	使用したアプリ
<p><活動内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新・筆順事典」というアプリを使いながら、新出漢字を自分で調べる。 ・アプリ内で筆順を確認し、なぞり書きの練習を行うことで、漢字を書くことに慣れる。 ・筆順を確認し、iPad 上で書く練習ができれば、実際に鉛筆で書く練習し、文字を書くことへの抵抗を減らしていく。 ・書いた漢字を掲示し、積み重ねを残すことで、自分がやってきたことに自信がもてるようにする。 	

実践の様子

<漢字の習得を目指す活動>



① 新出漢字を調べ、筆順の確認、なぞり書きの練習をする。

② 実際に書く練習をする。

③ 3年で習う漢字の 200 文字のうち、91 文字を学習することができた。

対象児の変化

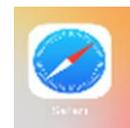
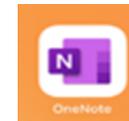
- ・漢字を書くことについては、「新・筆順事典」を用いて、自分で調べた漢字が見本として大きく提示され、表示され正しい漢字をもとに練習が行えたので、漢字を安心して書くことができた。また、すぐに消すことができたり、手本をなぞったりすることができるので、書くことへの抵抗感を減らすことに繋がった。また、何度もなぞり書きに取り組むことで、書き順も覚えることができてきた。
- ・初めは、操作に慣れず、探したい漢字を見つけることができないこともあったが、操作に慣れてくると、自分から進んで漢字を調べ、書き順の練習を行っていた。
- ・「iPad で調べる→iPad で練習→紙に書く」という一定のサイクルで行うことで、本人の学習のリズムが生まれ、意欲的に学習できるようになった。また流れを本人が理解したことで、学習のゴールも見えやすくなり、集中して取り組める時間が増えた。
- ・初めは、字形が整わないことも多くあったが、大きな見本を見て書いたことで、どこから書き始めるか、どのようにバランスが取られているかがわかり、少しずつ整った字を書くことができるようになってきた。

②「調べたことや学んだことの記録やまとめができること」を目指して

使用したアプリ

<活動内容>

- ・写真や動画の撮影機能を使えるようにすることで、授業内でわかったことや発見したものを、記録に残せるようにする。また、他の時間に、学習したことを見返すことができるように、OneNote や紙媒体に残し、いつでもどんな学習を行ったかが確認できるようにする。
- ・検索アプリの活用方法やその記録の方法を知ることで、学習に関することや興味関心のあることを検索できるようにする。
- ・まとめの学習では、目的に合った「書く作業」を適宜取り入れ、作業を繰り返し行うことで苦手意識を軽減していく。
- ・情報を発信できるようなまとめを作成し、周囲の人に認めてもらうことで、自分のやってきたことに自信をもてるようにし、成功体験を重ねる。



実践の様子

<町探検で見たものを写真で記録に残し、わかったことをまとめる活動>

(町探検は協力学級の担任が中心に実施したが、実施者も参加した。なお、まとめの学習は実施者が行った。)



①町探検の様子。地域を歩いて回る中で、気になる建物や置物、生き物や植物などを写真にとり、記録に残した。



②撮った写真を印刷し、見つけた場所を確認しながら、地域の白地図にはった。その後、施設や生き物の名前などを書き、同様の作業を行った。

③見た物の場所を自分で考えながら、白地図に貼ったり書いたりした。
「次はどれを書くの」と言って、学習に進んで取り組む一面も見られた。

④支援学級の上級生と協力して、地域の様子マップを完成させた。田畑が多い地域なので、その様子を色鉛筆で色を塗りながら、忠実に再現していた。

<担任と算数の時間に学習した内容を生かして、発展的な内容に取り組む活動>



①担任と学習した内容を写真に残す。
(今回は三角形の学習)



正三角形の
食べ物



②学習した2つの三角形が、日常生活のどんなところにあるか、検索アプリを用いて探した。自分が必要な写真については、スクリーンショットの機能を用いて、画像に残すようにした。探してみると、意外といろいろなところに三角形があることがわかった。ただ、角が丸いことや、辺の長さに微妙なズレがあることにはすぐに気づき、似ているけど、実際の二等辺三角形と正三角形とは違うことも認識できていた。

調べたことや学習したことが、あとから確認できるように OneNote にまとめていった。必要な写真を選び、その場所に合った大きさにトリミングをし、内容が分かるように文章も添えた。

<授業の最後に、取り組んだことを「えにっき」というアプリ内で書き、学習の積み重ねを残す活動>



1時間の授業で行ったことや思ったことを、撮った写真とともにまとめた。タイピングの技術が習得できていなかったので、音声入力を頼りに日記を記入した。しかし、音声入力は不正確な部分もあったので、正確に文章を作るために、タイピングの練習も行った。

対象児の変化

- ・町探検のまとめの作業において、書くことに苦手意識を感じていたが、間違えを減らすために、短い言葉で書くことを意識させたり、書くことを限定したりすることで、「書き間違えた時に、消しゴムで消して、もう1度書き直す」という作業が大変という本人の書くことへの抵抗感を軽減することができた。
- ・担任や保護者の方に学習の記録を見てもらい、認めてもらうことで、自分のやっていることに自信がもてるようになってきた。
- ・1日の記録を残す場面において、音声入力やタイピングでの代替えをすることで、「字を上手に書くことができないから、書きたくない」という本人の負担なっている部分を軽減することができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

見通しをもてないことにより、活動に参加できなかつたり、自分のやっていることに自信が持てなかつたりしたが、多くのことに見通しをもって活動できるようになったことにより、活動の幅が広がり、学校生活に前向きに取り組めるようになったのではないかな。

・エビデンス

	取り組み前	取り組み後
実施者との授業 (金曜日の3時間目)	<ul style="list-style-type: none"> ・登校しぶりが起きる。(6月～7月) ・玄関の前でお母さんや担任に授業内容に関する質問攻めをする。 (6月～7月) ・いざ授業になっても、集中して取り組めない。 (6月～7月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施者の授業が原因の登校しぶりがなくなった。 ・質問攻めはなくなり、むしろ自分から、担任に授業でやることを伝えるようになった。 ・今日やるべきことに一生懸命取り組む時間が増えた。
学校行事や協力学級での授業	<ul style="list-style-type: none"> ・行事前になると、不安になり、登校をしづる。また、登校したとしても、母親がいないと落ち着かない。 (6月から9月中旬) ・なかなか参加できずに、違う場所から担任や母親と見ている。 (6月～9月中旬) 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学校に来てから、なかなか教室に入れないこともあるが、母親とは校内で一緒にいることはなくなった。 ・学校行事(運動会や高齢者との交流会、持久走大会など)や協力学級での授業(主に体育や総合的な学習の時間)に多くの時間、参加できるようになった。
学校生活の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の中に、不安なことがあると、登校しても、すぐに「家に帰る。」と言って、教室を飛び出したり、教室のはじめに隠れたりすることが多々あった。 (6月～9月中旬) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家に帰る」という発言はほとんどなくなった。また、学校生活においても、笑顔が増え、楽しく過ごしている。

・その他のエピソード

エピソード1 「できる」

「できる」というつぶやき取り組みを重ねていく中で増えていった。初めは、「面倒だから先生やって。」「できないから先生やって。」という発言が多かった。しかし、やり方を学び、自分でもできることがわかると、「できるから」と言って、iPadを奪われることもあった。特に、スクリーンショットやトリミングについては、「先生がやるより自分でやった方が上手にできる」と言われるほど、上手にできるようになり、自信をもって取り組んでいた。

エピソード2 「iPad使います」

学習に対して、受け身のことが多かったが、3学期に入ると、「先生、iPadを使いたい」という発言が増えてきた。その際には、「自分で必要なことを調べる」「これからみんなで踊るダンスを撮影する」などの用途で使っていた。これは、iPadのできること(検索や撮影、映像を見る)などが分かり、自分が必要な時に、使いたいという意思が出てきたのだと思った。また、iPadを使えば、「自分でもできることがたくさんある」ということが分かり、iPadを手段の1つとして考えていることがわかった。